

琉球大学学術リポジトリ

障害者就労支援飲食店応援アプリケーションDERIA の開発

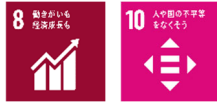
メタデータ	言語: Japanese 出版者: 琉球大学 公開日: 2024-08-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 波名城, 翔 メールアドレス: 所属: 琉球大学人文社会学部
URL	https://doi.org/10.24564/0002020436



障害者就労支援飲食店応援アプリケーション タイトル DERIA の開発

所属・氏名 琉球大学人文社会学部 波名城翔 専任講師

関連する
SDGsの
ゴール



— 精神保健福祉士・社会福祉士の資格をお持ちで、国内の自殺対策を調査され、2024年「自殺者を減らす！」(新評論)を出版されていますが、今回は、障害者就労支援飲食店応援アプリケーションの開発に至った経緯を教えてください。

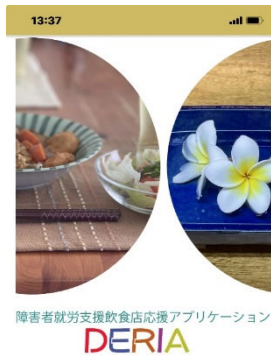
大学教員以前は市役所(福祉専門職)に勤めていました、そのときから障害者の就労問題が改善できないかと考えていました。障害者総合支援法では、障害福祉サービスの中に就労支援が位置付けられています。厚生労働省が公表した平均工賃(賃金)は、雇用契約に基づく就労形態である就労継続支援A型事業所では月額約8万円、雇用契約を締結しない就労継続支援B型事業所では月額約1万6千円です。年々、賃金(工賃)は向上しているものの一般的な就労と比較すると低賃金であり、障害者が生活を維持していくことは容易ではありません。

近年は飲食店を運営する福祉事業所があり、私が受け持つ障害者福祉論の授業で、障害福祉事業所が運営する飲食店を学生にレビュー評価させる取り組みを行いました。学生からは「安くて美味しい」、「障害者の方が生き生きと働いていた」という食事の評価と障害の理解に効果的であると感じました。また、その一方で、「宣伝不足」が課題としてあげられました。

障害福祉事業所が運営する飲食店を県民が利用する機会を増やすことで、飲食店の収益性が高まり、結果として障害者の賃金の向上につながります。さらに、県民と飲食店で働く障害者との交流の機会が増加することで、障害への理解が深まり、障害者がやりがいを得て、自分の居場所を作っていくこと、共生社会の実現につながる効果も期待できると思い、教職大学院の先生方とウェブアプリの開発に取り組んでいます。

— 県内に飲食店を運営する福祉事業所は何か所くらいあるのでしょうか。

沖縄県内の指定障害福祉事業所は増加傾向にあり、約700か所あります。そのうち、飲食店を運営する福祉事業所は約60か所あります。最終的には本島と石垣島の6事業所からご協力をいただき、DERIA(Disability Employment Restaurants Information Application)に掲載しました。また、掲載事業所数は多くはありませんが、地元の新聞に取材されるなどインパクトはあったと考えています。



DERIAのホーム画面

— 今後の展望をお聞かせください。

DERIAに掲載する事業所を順次、増やしていくとともに授業などで活用することで、教育の側面からも共生社会に向けた取り組みとして進めていく予定です。美味しいので、ぜひ、足を運んでみて下さい!!

DERIAは以下からご覧ください。

<http://mk21.moon.bindcloud.jp/deria/index.html>

※ アプリをみて、お弁当を買いに行きました!



トマトソースが絶妙に絡んだ味わい深いハンバーグ弁当! 美味しかったです! ごちそうさまでした。